

最小限の負荷でプロファイリング情報を収集 JAVAアプリケーションの動き全てが見渡せる

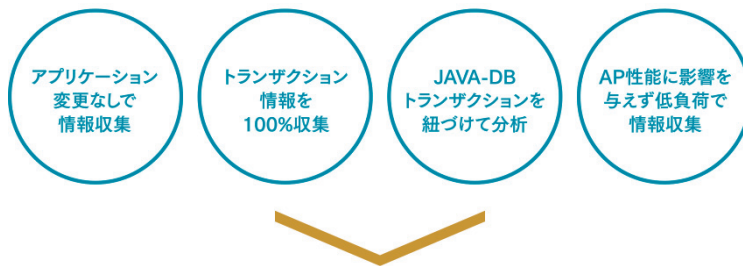
MaxGauge for JAVA



製品概要

『MaxGauge for JAVA』は、独自で実装したSFP(Super Fast Profiling)機能を通じて、最小限の負荷(CPU < 1%)でプロファイリング情報を収集し、常時収集が可能で一時的に特定パッケージのみ限定して収集する他社ソリューションと差別化。Simple Methodを除くUser Class全実行履歴の収集も可能としています。

特徴



システムの負荷は最小限に、収集する情報量は最大で

| 情報取得間隔 | OS指標・WAS指標 1分間隔 | トランザクション リアルタイム情報:100% | 事後分析情報 3秒間隔 |
|----------|---|---------------------------|----------------|
| トランザクション | トランザクション情報を100%収集、実行中のトランザクションの処理状況をリアルタイムに表示 | | |
| コールツリー | 実行時間が遅いトランザクションのコールツリーを自動収集、クラス、メソッド単位で処理時間を調査可能 | | |
| 例外履歴 | トランザクションで発生した例外を収集、発生した例外の履歴から発生件数や発生傾向を簡単に把握できます | | |

機能

リアルタイム分析機能 直感的なインターフェースで、リアルタイムに性能情報を把握
分かりやすく、直感的に把握できるインターフェースで、よりスピーディーで正確な情報把握が可能。リアルタイム監視だけでなく、診断、分析を可能にする「リアルタイム分析情報」も提供します。

アラート機能 JAVAアプリケーションに特化した監視
アラート発生履歴も分かりやすく掲載しているので、いつ・どのようなタイミングで問題が発生したかすぐに確認・分析することが可能です。

事後分析機能 スピーディーな性能診断を実行
『Quick Launch』メニューを使用してスピーディーな性能診断を実行できます。また、トランザクションパスを図で確認。遅延が発生した特定WAS内どんなメソッドで遅延が発生したのかドリルダウン分析できます。

Oracleセッションとの紐づけ分析機能 より根本的な問題点に対応
Oracleセッションでの動作と紐づけて分析することで、より根本的な問題点に近づけます。



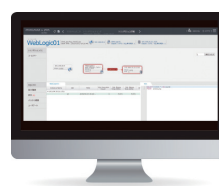
- トランザクション処理状況
- トランザクション処理確認
- JVM、GC等指標
リアルタイム分析
- 処理時間での
トランザクションピックアップ



- 指標監視(JVM, GC, OS)
- コネクションプール監視
- 例外発生監視
- アラートサマリ分析



- 各種指標分析
- トランザクション
実行履歴追跡・分析
- JAVA Class内処理状況分析
- トップトランザクション分析



- トランザクション-セッション紐づけ
- Oracle側リソース利用量確認

販売価格

個別見積

商品番号 1001951 MaxGauge for JAVA